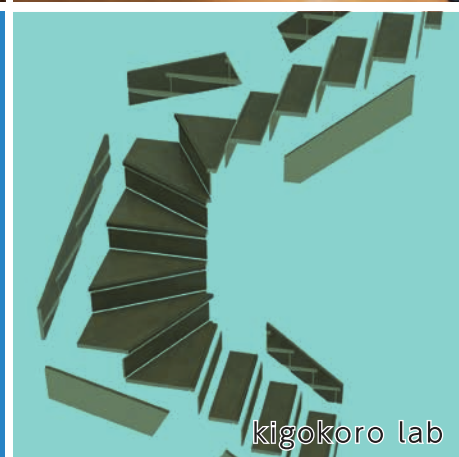
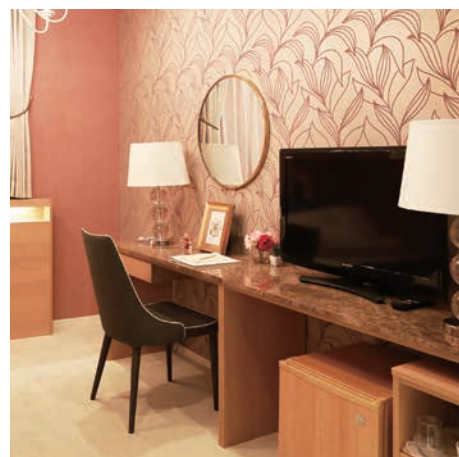


kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Spring-Summer 2020 / vol.4



kigokoro

Spring - Summer
2020 / vol.4

第4号 令和2年7月1日発行
編集・発行: 永大産業株式会社 ヴォケインテグ部 広報課
〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL: 06-6684-3058 FAX: 06-6684-3051



「心地いい、暮らし空間」の新提案

好きを暮らしに。
自分スタイルの空間づくり。

しあわせを感じるのは「好きなもの」との出会いから。
好きを選んで、自由に組み合わせ、
気がつけばほら、家族の笑顔がはじける心地いい暮らしがはじまります。

EIDAIの「Skism」は、自分らしい暮らしを応援。
好みのテイストとデザインを選ぶだけで
あなたが想い描いた、憧れの空間が手に入ります。

木を活かし、よりよい暮らしを
EIDAI 永大産業株式会社
www.eidai.com

お客様相談センター
☎ 0120-685-110
【受付時間】 平日・土曜日9:00~18:00(休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索



新製品紹介

Orroom
オアルーム

宿泊施設の客室にぴったり！選ぶだけのシステム家具

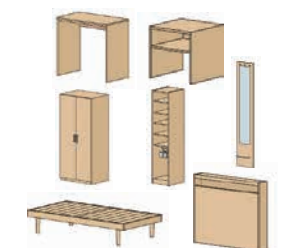
Orroom (オアルーム)

これまで特注だった客室の家具を、手早くトータルに揃えられる製品が誕生。これから建設される宿泊施設におすすしめします！

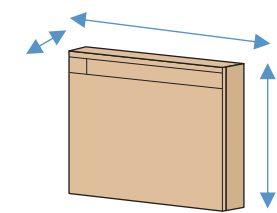


プランニングのイメージ

- 1 ベースアイテムを選択
- 2 サイズを決定
- 3 色柄を選択



ワードローブ、デスクなど7種類の中から好みのアイテム(19アイテム)を選択



サイズ(幅・高さ・奥行き)を自由に決定

木目柄		単色	
WH ハーモニック ホワイト柄	PP パール パール柄	LN ネイキッド ライト柄	PH 単色 ホワイト柄
GM グレース ミディアム柄	CB ショコラ ブラック柄	DB ディープ ブラック柄	

スキスムSに対応したの色柄7種類から選択(この他の色柄でも対応可)

豊富なベースアイテムから家具を選んでインテリア性の高い空間が完成

わが国の人口減少に伴い、住宅需要は将来的に漸減していくとの見通しが支配的です。一方、非住宅分野とりわけ外国人客を対象とした宿泊施設は、長期的に見ても有望ですが、そのような宿泊施設は物件ごとに間取りや仕様が異なるため、これまで家具は規格品で対応できず、特注品となるのが一般的でした。そうなるに発注から納品までに手間と時間がかかるうえ、品質がバラつきやすく、施工精度も現場で作業する人の力量に委ねられます。こうした問題を受け、当社が開発したのが、宿泊施設向けの新たなシステム家具「Orroom(オアルーム)」です。

「Orroom(オアルーム)」とは、「or=Aある」「B(〜)を選ばず」+「room=部屋(室内空間)」の意味を持たせた造語です。豊富なベースアイテムから客室に合わせた家具を選べるほか、特注にも対応できることが大きな特長です。色柄は、当社の主力ブランド「Skism(スキスム)」の7柄を中心に取り揃えているため、当社のフローリングや建具などのトータルコーディネートも可能になります。見積もりも迅速にでき、さらに完成品で現場に納入するので、施工にかかる手間や時間を大幅に短縮できます。

さまざまなタイプの客室へ柔軟に調和し、快適な住空間を均一に実現できる「Orroom(オアルーム)」。これからの宿泊施設に、ぜひご活用ください。

開発者の声

戸建て住宅で培った家具のノウハウを
宿泊施設に活用して開発

これまで顕在化していなかったノウハウを「見える化」することから始まった商品開発。そこに懸ける思いや発売までのエピソードなどを、2人の開発者に語ってもらいました。



オアルームの
ポイント!

家具を構成する材の厚みを18mmに統一して、さまざまなプランを組めるようにしました。



仕様やデザインについて、最もこだわったポイントは。

井上 もろろん 特注家具を手がけた実績は数多くあるのですが、営業的に「こんなことができませんよ」とお見せできるカタログのようなものがなかったのです。そこで、これまでの蓄積をもとにパターン化したベースアイテムをつくり、きちんとブランドとして立ち上げることから始めよう。

前田 家具を構成する材の厚みを、極力18mmで揃えたことです。材料として最も調達しやすい、ペーシックな厚みが18mmなのです。同じ厚みの材でさまざまなプランを組めるようにしました。このような視点から合理化を図ることで、コストパフォーマンスも高められると考えました。



内装システム事業部 商品部 商品開発三課 課長 前田 雄亮
内装システム事業部 商品部 商品開発三課 井上 あかり

井上 ただ、その材料で1200mm幅のデスクをつくるのは苦労しましたね。天板が中央でたわんでしまうのを防ぐために背板を高くしたり、何度も試験を繰り返して必要な強度を確保しました。

前田 その甲斐あって、ベースアイテムとしてはワードローブやデスクなど、7種類19アイテムのバリエーションを実現できました。当社の戸建て住宅でのノウハウを存分に活かせると思います。

今後はブランドとしてどのような成長を期待しますか。

前田 「Orroom(オアルーム)」は宿泊施設だけでなく、福祉施設や幼稚園などでもお使いいただけるシステム家具です。これまで当社が内装材や建具を納入させていただいていたこのような施設に、今後は家具までご提案し、より一層広がりが生まれることを願っています。

新会社 関東住設産業株式会社を設立

新しい洗面化粧台、システムキッチンも発売開始



洗面化粧台「キューボプレーン」



関東住設産業(外観)



洗面化粧台「シャンピーヌプレーン」



システムキッチン「ラボット」の施工例

当社は7月1日をもって、株式会社ノーリツの連結子会社、株式会社アールビーのキッチンライフ事業所の事業の一部を譲り受けました。併せて当社の完全子会社である関東住設産業株式会社の業務を開始しました。このたびの事業譲受は、住設事業の強化を図り、BCP/BCMの一環として水まわり商材の複数拠点化を進めたい当社と、当社とは逆に住設システム分野から撤退し、国内事業の構造改革を推し進めたいノーリツとの思惑が一致したことによるものです。

今回の事業譲受の対象となったキッチンライフ事業所は関東産業株式会社が前身であり、当社は2008年から同社に対し、システムキッチンと洗面化粧台の一部の製造を委託してきました。新会社の社名は、こうした過去からのつながりもあって馴染みのある関東産業が元となっています。

事業譲渡に先立ち、当社は株式会社アールビーのキッチンライフ事業所で製造していた2種類の洗面化粧台を、それぞれ「キューボプレーン」、「シャンピーヌプレーン」と当社製品名に変更し、6月1日から発売しました。また同日には、システムキッチンの新製品「ラボット」も発売を開始しました。「ラボット」は普及価格帯(ボリュームゾーン)向けに、価格を抑えながらも、徹底的に使いやすさやお手入れのしやすさという機能性を追求した製品です(詳細はカタログを参照)。

新会社では首都圏に近いという地の利を活かし、特に東日本エリアのお客様(ビルダー様)への提案営業を強化していきたいと考えています。

SDGsの取り組み 省施工型製品の開発



現場におけるプレカットの必要性

当社がSDGsに取り組み、環境面では5つの具体的な行動をとることは、前回のこのコーナーでご説明しました。今回はその具体的な行動の中から「プレカットを中心とした省施工製品の拡大による廃棄物の抑制」をご紹介します。

住宅に使用する梁や柱などの部材(構造材)を、出荷前にあらかじめ工場加工し、現場での省施工を図るプレカットは、大工技能者の減少を背景に、今や一般化してきた感があります。しかしそのことは内装材も例外ではありません。代表的な製品が「階段材」です。

昔「階段材」は大工技能者の腕の見せどころといわれ、自身で複雑な木取りと加工を行い、組み立て

循環型社会の構築に向けて(階段材、窓枠材のプレカット)

経営5カ年計画「EIDAI Advance Plan 2023」の基本方針のひとつである「SDGsの取り組み」では、具体的に施工現場における廃棄物の抑制と端材の再利用を挙げています。今回の「kigokoro lab」では、循環型社会の構築に向けたその内容についてご紹介します。

いったんですが、今日我が国の住宅建設では、工場でのプレカットされた「階段材」の使用が当たり前となつていきます。

正寸プレカットで環境に配慮

こうした中、当社は1989年から階段のプレカットに着手しました。その後、工場の加工機と連動する当社独自の受発注システムを導入しましたが、2008年に大幅なシステムの改善を施し、加工範囲を大幅に拡大させた「階段の正寸プレカット」の供給を開始しました。これだと施工時間の短縮や仕上りの均一化に加え、現場での廃材を削減できるというメリットがあります。

木質ボード(パーティクルボード)を生産してい



階段の正寸プレカット



プレカット窓枠セット

「階段材」と同様に、大工技能者の減少によって大きな影響を受けている製品に「窓枠材」があります。こちらも昔は大工技能者が開口部ごとに採寸し、加工して納めていました。

一般的な戸建住宅だと、平均約17カ所の開口部があるとされ、施工に丸1日かかりますが、当社の「プレカット窓枠セット」だと、約1時間余りに短縮することができます。

「プレカット窓枠セット」では、工場でのプレカットにとどまらず、邸別配送する仕組みを取り入れ、お客様へのサービス向上に努めています。

また「階段の正寸プレカット」と「プレカット窓枠セット」をお取り扱いでないお客様は、これを機に是非お試しくたさい。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。

窓枠材もプレカットで省施工

当社の場合、工場でのプレカットした後の端材を、原材料として再利用できる循環システムを備えていますので、環境への負荷を低く抑えることが可能です。

インタビュー

子どもたちの未来のために



NPO法人FAIRROAD 副理事長 栗本 正則氏

多くの子どもたちに生きるための「スキル」を身につけてほしい。
NPO法人FAIRROADではこうした思いを実現させるため、東南アジアの無電化地域にソーラーランタンを届ける事業や、高校の中で心の拠りどころとなるような居場所を作る事業などを展開しています。経営五カ年計画でSDGsの取り組みを掲げている永大産業ではこうした活動に協賛し、2018年から同法人への支援を行っています。栗本正則副理事長に具体的な内容や今後の方針についてうかがいました。

2012年、NPO法人FAIRROADの立ち上げに加わり、副理事長職に就きました。

現在の事業は国外に及んでいるようですが。



国外事業ではタイやミャンマーの無電化地域に、ソーラーランタンを届けています。この無電化地域とは、難民キャンプや、ごみ山で暮らす移民の方々、山岳地帯に暮らす方々の地域など、文字通り電気が通じていない地域を指します。ここに住む子供たちは昼間、学校や家の手伝いに追われて他には何もできません。せめて夜には自分の時間が持てるよう、安全に明かりを灯せるソーラーランタンを届けているのです。

永大産業には2018年からこの事業を支援していただいています。



無電化地域に安全な明かりを

同社は過去に、こうした国々の木材を利用していたこともあったそうです。そのような御縁もあって、社会貢献活動の一環から、ソーラーランタンを届ける「蛍の光プロジェクト」に参画していただくようになりました。



国内の事業について教えてください。

国内事業では、高校の中でフリースペース名付けて「居場所カフェ」を設ける事業を展開しています。貧困や家庭不和などが原因で、どこにも自分の居場所がないという子供は意外と多く、そうした子供が不登校となり、中退したりしないよう、カフェのようにくつろげる空間に集い、一緒に悩みや不安を話し合おうということを目指しています。このカフェの中では親や教師といった縦の関係ではなく、また友人同士という横の関係でもありません。居場所にいるスタッフとの「斜めの関係」の中で、大人や社会との関わりを持つことにより、自立するスキルを身につけてもらいたいと思っています。こうした「居場所カフェ」は今、非常に注目されており、全国的な広がりを見せています。

この事業にも永大産業にご協力いただいております。用途に応じて様々なレイアウトが可能で「リビングステージ」小上がり収納プラン」という製品があります。昨年、この製品を活用し、大阪府内の高校で社員の方と生徒が一緒に組立作業を行って居場所カフェを設けたところ、大変好評でした。



当社社員と高校生の共同作業で「居場所カフェ」を設置



完成した「居場所カフェ」

地域で支える 学校づくりへ

昨年、「みんなで学校を考える」というセミナーを主催されたそうですが、一体どのようなことを目的とされていたのでしょうか？

私もNPO法人が高校で居場所カフェを設ける事業を展開していることは、先に述べた通りです。しかし、居場所カフェが必要になる子供たちは、何も高校に入ってからそうなるわけではなく、問題の種はそれ以前、

なわち小中学校の段階で芽吹いているのです。

その小中学校は今、少子化に伴って急速に統廃合が進んでいます。しかし、本当に統廃合しか手段はないのでしょうか？小中学校がなくなってしまう地域に、子育て世代が魅力を感じることは考えにくいでしょう。ましてや、わざわざ引っ越してまで住みたいとも思わないでしょう。となると高齢化だけが加速し、やがて街は完全に衰退するしかなくなります。

そこで小中学校の活用について皆で知恵を出し合えば、何か良い方法が見つかるのではないかと思いつき、みんなで学校を考える」というセミナーを企画しました。

セミナーの概要について教えてください。



セミナーは2019年5月から今年の1月まで、およそ2カ月おきに5回に渡って行いました。毎回、教育、福祉に造詣の深い方、あるいは街づくりに携わる方など様々なゲストを招き、それぞれの専門分野から意見を述べていただきました。

また、セミナーの後半は聴講された方々と忌憚のない意見交換を行いました。

永大産業は経営基盤を強化しようと、近年、幼稚園などの園舎や高齢者向け施設など非住宅分野に目を向け、商圏を拡大しようとしています。その一環として文教施設に関して多くのデータをまとめていました。そこでセミナーにご協力いただき、基調講演として毎回、こうしたデータを元に少子化が進む地域で、これからの学校のあるべき姿を提起してもらいました。

同社が提起したのは学校の複合化でした。複合化とは学校の中に公民館、福祉施設、子育て支援の施設など

セミナーを振り返ってみて、いかがでしたでしょうか？

セミナーではインターネットを通じたWeb学習が普及する中、そもそも箱ものとしての学校が必要なのか、という議論もありました。しかしセミナーを通じ、学校は勉強の場以外にも様々な機能を有する場であることや、学校を地域の中でどう残すかという社会的関心は決して小さくはないということを再認識することができました。複合化への道のりはやさしいものではありませんが、お招きしたゲストの方やご参加いただいた聴講者の方々から参考になる多くの意見もうかがうことができました。それらの意見を今後のNPO法人の活動の中で活かしていきたいと考えています。



セミナーにおける基調講演



セミナー会場の風景

日本の原風景

第四回 京都府福知山市
福知山城



明智光秀が丹波国平定の際築いた
総石垣の近代城郭

群雄割拠の丹波の地を平定した明智光秀を「その名譽は天下に比類なし」と織田信長は称賛した。その時に築いた名城、福知山城を訪ねてみた。

明智光秀は本能寺の変で織田信長に反旗を翻したことで天下の謀反人として歴史にその名を刻むことになるのだが、この福知山市では今も「名君」として親しまれている。

足がけ4年かけて丹波国を平定した光秀は由良川の治水を行い、また、年貢以外の租税を廃したため領民から慕われていたようだ。

その時に居城としたのがこの福知山城。由良川と土師川に挟まれた小高い丘の上に建つこの城は別名「臥竜城」と呼ばれている。天守閣に登ると福知山市を一望できる、山々に囲まれたこの景色を光秀も見ていたと思うと感慨深い。

お、神社などで使用されていた石塔などが多数用いて作られた当時の石垣が残っている。

信長から称賛された丹波国平定から3年後、本能寺の変で謀反を起こした光秀はこの地で何を考え、思ったのだろうか。

福知山城近辺には光秀ゆかりの地がいくつもある。その中でも御霊神社にはぜひ訪れてほしい。いかに福知山で光秀が慕われていたのかを感じることができる。



column 暮らしの目にやさしい木

木を多く使った住まいの心地よさには 視覚的な効果も大きく関係しています。

木は、強い光を拡散しておだやかにし、目に有害な紫外線やブルーライトも吸収。

住まいの中で、タイル仕上げの床やガラステーブルなどに直射日光が当たると、とてもまぶしく感じます。でも、木のフローリングや家具ならまぶしくありません。一体なぜでしょうか。

それは、木材の表面にマイクロ単位の凹凸があるからです。この凹凸によって光がさまざまな方向に拡散されるため、木に光が当たっても、ぎらつきのない程よい光沢となって目に映るのです。

また、木材には紫外線やブルーライトを吸収する働きもあります。紫外線は波長の短い光で日焼けの原因として知られ、目にもダメージを与えます。ブルーライトは可視光線のなかでは最も波長が短く、強いエネルギーを持っているため、同じく目の疲れや睡眠障害を引き起こすといわれています。これらを吸収してくれる木を住まいに多用すれば、目にやさしい住空間が実現します。

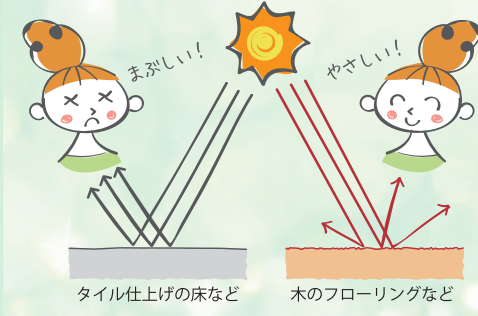
ちなみに、木材が経年によって美しいあめ色に変化するのも、紫外線を吸収する性質によるものです。人に有害なものを引き受けてくれて、年月とともに味わいを増す木。なんだか愛おしく思えてきませんか。

木目を眺めていると癒されるのは視覚的な「1/fゆらぎ」を感じるから。

木には他にも、「木目」というやさしさを持っています。木目の表情は、木の成長記録である年輪や、土の中の水分を吸い上げる導管などの配列によってさまざまに変わりますが、そこには自然界が生み出す独特のリズムがあります。

これは「1/fゆらぎ」と呼ばれ、規則正しさと不規則さがちょうどいいバランスで調和しているため、人に心地よさを感じさせるといわれています。木目をただ眺めているだけでも心がなごみ、癒されるような気がするのには、この視覚的な「1/fゆらぎ」によるものでしょう。

強い光をやわらげたり、目に有害な光線を吸収する働きをもち、さらに美しい木目を見せる木。日頃は意識することがなくても、木は知らず知らずのうちに、私たちの視覚をいたわってくれているのです。



木材は表面の凹凸で光を乱反射し、さらに紫外線を吸収するので、目に刺激が少なくやさしい建築材料といえます。

ショールーム紹介 京都営業所・京都ショールーム

より一層、お客様から頼られる存在に

京都営業所では、京都、滋賀の1府1県全域を商圏とし、主に地域の工務店様、流通業者様とお取引させていただいています。

一概に京都と滋賀といっても、地域ごとにそれぞれ少しずつお客様の製品へのこだわりやニーズが異なります。こうした地域色に配慮しながら、当営業所・ショールームでは、よりよい住まいの提案ときめ細かなサービスで、より一層、お客様から頼られる存在となれるよう努めてまいります。



住所 〒612-8417 京都市伏見区竹田向代町川町22-6
休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、5月連休
営業時間 AM10:00~PM5:00

◇京都ショールームスタッフ◇
写真左から、岩崎、秋定、仙波(所長)、橋添、山口、中村です。





工務店とSDGs

お子様から「お父さん、SDGsって知ってる？」と聞かれたことはありませんか？
今、SDGsは企業だけでなく学校教育等にも取り入れられ、持続可能な社会の実現という共通目標に向けた動きとして世界的に広がりを見せています。

SDGsとは何？

SDGsとはSustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称で、国連サミットの中で決められた2030年までに実現させる国際社会共通の目標です。21世紀の世界で主に掲げる課題として「17のゴール、169のターゲット」をあげており、日本政府もSDGsに積極的に取り組む姿勢を打ち出しています。



地球と人類、双方の持続可能性を求めた共通目標として、経済・社会・環境に関わる重要な価値を有しています。

既に、経済価値追求だけが豊かさの源でないことに多くの方が気づき、SDGsへの共感が広がっています。

工務店はSDGsにどう取り組むか

SDGsを単に企業PRとしてだけでなく、会社の経営計画にまで取り込んでいくことが望ましいのですが、そのためには、以下の2つのステップが重要となります。

まずは、**実際に行ってきた業務と、自社が今までどういうことに強みを持って取り組んできたか、事業内容を洗い出しリストアップしたものが、目指す17の目標のどれにあてはまるかについて、考えてみる**ことです。例えば、住宅の高性能化に取り組んできた、木にこだわってきた、健康住宅に取り組んできた、また女性や高齢者層を積極的に採用してきた等々、様々な取り組みが17の目標いずれかに合致する可能性に気づくことになるでしょう。

この段階でHP等に宣言として公表されている方も多くおられますが、これだけでは不十分です。最も重要なのは、**SDGsを通じ、将来持続可能な社会に貢献する企業として、自社の将来を描き、それを社内外に浸透させる**ことです。SDGsは現在だけでなく**2030年に到達すべき未来への目標**です。将来(2030年には)、**自社がこうありたいという姿を明確にし、今とのギャップをどう埋めていくか、今後何に取り組み改善していくか、をリストアップ**することです。これは小さなことからでも構いません。実現可能性も考慮しつつ優先順位を決め、優先度の高いものから17の目標に紐づけていくこと。これが次のステップになります。

もちろん、この作業は経営計画に直結するもので、一朝一夕には決められないでしょう。会社として自分の行く末を決めることでもありますので、経営者一人で悩むのではなく、社員また外部協力者を巻き込み、一緒に作り上げるべきです。そのために、勉強会で社員にSDGsを理解させる機会を設け、さらにミーティングを積み重ね、よく検討していくことが必要となります。

今、より良き社会、地域になるために貢献する企業が求められ、認められています。その実践を表現するための指標として、そして今後の経営計画を魅力的で将来性あるものにするためにも、共通言語になるSDGsを活用されることをお勧めします。

EIDAI HISTORY 第4回 内装材(収納製品)の開発 前編

当社が1969年に初めての収納製品を発売してから50年が経過しました。そこで今回(前編)と次回(後編)の2回に渡り、収納製品の開発の歴史についてご紹介いたします。

当社の収納製品の第1号は1969年に発売した「永大下駄箱」でした。

当時、住宅の収納といえばほとんどの場合「押し入れ」を指し、和服、洋服等を片付けるのは、もっぱら和ダンス、洋ダンスといった「箱もの」でした。そのような「箱もの」の収納で、建材メーカーが参入できる製品がないだろうか、と最初に目をつけたのが下駄箱でした。

この「永大下駄箱」は組立式で15ミリ厚のパーティクルボードを用いました。1969年といえば、敦賀事業所にパーティクルボードの生産工場が竣工した年でもありません。

パーティクルボードを用いた製品が珍しくない現在とは異なり、ほとんど全ての製品の基材が合板で占められていた当時、新しい木質ボード(パーティクルボード)の用途開発は、当社にとって大きな課題でした。

この「永大下駄箱」の開発過程では、雨の日の濡れた傘や履物を想定し、水分で寸法変化が生じないようにすることが絶対条件でした。これについては最終的に、耐熱性、耐湿

性など多くの優れた物性を持つダップ樹脂(DAP/ジアリルフタレート)仕上げを施すことで解決しました。

その後当社は、他社との差別化を図るため、独自の技術を採用入れしました。その一つが「フラットスライダ」機構です。これは吊り下げ式の引き違い戸を取り入れた仕組みのことで、左右どちらからでも開閉でき、しかも扉を閉じた際、扉面に段差を生じないという特徴がありました。また扉の下にレールがないため、掃除がしやすいというメリットもありました。

しかし、こうした「箱もの」が単品でなく複数の部材で構成されるシステム製品に移行していく中、この「下駄箱」も例外ではありませんでした。

今日「下駄箱」は、シューズボックスと名を変え、ほぼ天井高まで収納できるタイプの製品が主流となっています。



永大下駄箱

壁面内を収納スペースに活用

1970年代に入ると住宅の洋風化に拍車がかかり、これまでのような押し入れや、洋ダンスと異なる収納のあり方が求められるようになり、生活が豊かになり、それにつれて便利なものがどんどん増えていきましたが、依然として室内には限られた収納スペースしかなく、多くのものを効率的に片づけたいという消費者のニーズは、このころから急激に増えつつありました。

こうした中、1979年に開発したのが、壁面内を収納スペースに用いる「ロイヤルシュノーール」でした。それまでの「箱もの」と異なり、自由な設計と高いデザイン力、そして家具販売ルートでなく、木材建材ルートで扱える製品として、取引先に訴求できる点が大きな魅力でした。

この「ロイヤルシュノーール」は室内の床から天井までの高さ、壁の間の空間を収納スペースとして活用するもので、デッドスペースを大きく減らせるという効果が期待できました。但し、側板、背板、上(下)扉など複数の部材で構成されるこの製品は、施工に対する理解が不可欠であったため、当社は従業員を対象とした「システム教室」を開催



ロイヤルシュノーール

- 1946 (S21)
- 1950 (S25)
- 1955 (S30)
- 1960 (S35)
- 1965 (S40)
- 1970 (S45)
- 1975 (S50)
- 1980 (S55)
- 1985 (S60)
- 1990 (H2)
- 1995 (H7)
- 2000 (H12)
- 2005 (H17)
- 2010 (H22)
- 2015 (H27)
- 2020 (R2)

編集後記

ウィルスはおよそ30億年前には地球に現れていたといわれています。これに対し人類はわずか20万年前の歴史しかありません。この先住者はしばしば爆発的な感染拡大を引き起こし、人類を悩ませてきました。ところで今回の新型コロナウイルスには、当社も別の意味で大いに悩まされました。広報誌「kigokoro」を編集している最中に、予定していた取材が全てキャンセルとなってしまったためです。おそらく、それらなりわ

永大産業株式会社 マーケティング部 広報課 ©2020Eidai Co., Ltd.

いと新聞社、雑誌社等ももっと大変でしょう。少し前になりますが、あるスポーツ紙を広げてみたら、わずか数ページの構成となっていました。自粛や中止が相次ぎ、記事や広告が激減してしまったためでしょう。この新型コロナウイルスとも長く付き合っていくか悩まならないようです。それに対応しつつも質を落とさない編集活動を行わねば、と改めて思う昨今です。

お断り：原則、文中での敬称は省略させていただいております。